

19 糸満のヒーダチ御願

ヒーダチというのはどう書くちゅうと、ちよつと私もわかりませんけども、あれは昔からの糸満の言い伝えですから、伝説ですから。

ヒーダチ御願というのは、これはなぜ御願と。昔、このね、この辺にですね、この辺からずうつと入り船であつたつて、海が、陸に。ここにこう、今のところ全部家が建つております。埋め立てしてね。家が建つておりますけれども、そこはこの、入り海であつた。つまりこの、辰の魚ね、このとがつたやつが。やつがこの、潮が満ち潮になつて、たくさん辰の魚が寄つてきた。それを釣ろうといつてみんな、たくさんの人が魚釣りに行つておる時に、その魚はピューツと飛ぶんです。飛んでくるわけですね。飛んで来て、人の胸を刺したりね。それで亡くなつた人が何名も亡くなつたんでね、これはたいへんだということで、あまり魚が多いから、これを退けようじゃないかと、なるべく

追い払うような、ひとつ、ご祈禱でもさせようという
ようなことで、これが向こうのほうに、海辺じゃなく
て向こうに起こつたもんだから、向こうに出て願つた
らしい。

そしてその、そういうこの、拝みをするのがヒーダ
チの御願と。魚を追い払う、寄せつけないようにとい
う拝みですな。まあひとつの呪いでしょね。

字糸満 田場天龍